

国立大学法人金沢大学中期目標

(文部科学大臣提示：平成28年3月 1日)

(一部変更提示：平成29年3月21日)

(一部変更提示：平成30年3月26日)

(一部変更提示：平成31年3月26日)

(前文) 大学の基本的な目標

金沢大学は、本学の活動が21世紀の時代を切り拓き、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとの認識に立ち、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」の位置付けをもって改革に取り組むこととし、その拠って立つ理念と目標を金沢大学憲章として制定している。

本学においては、金沢大学憲章に掲げる目標の達成に向け、持続的な“競争力”を持ち、高い付加価値を生み出し、21世紀における世界の先端に位置する真の“グローバル大学”を目指す。

このため、学長のリーダーシップの下、戦略的な運営マネジメントにより、教育研究のあらゆるシステムを徹底的に国際化し、以下のとおり、学術研究・教育等に係る機能を強化する。

- 日本海側に位置する世界に誇る教育・研究拠点として、強み・特色のある分野の研究実績を基に、分野融合型研究や新興分野研究等の先進的・独創的な研究を推進するとともに、教育・研究拠点としての基盤となる学術研究の多様性の進化を図る。

特に、優位性のある研究分野においては、国内外の機関との連携を強化し、世界的な共同研究の拠点として、学術研究の展開を牽引する。

- “金沢大学ブランド”の確立・定着を目指し、教育内容及び教育環境のグローバル化を徹底的に推し進める。

共通（教養）教育においては、教育体系の抜本的な改革により、グローバル社会で活躍するための基盤となる“人間力”を醸成する。

学士課程においては、学域学類制の深化を図るとともに、教育内容の刷新により、世界で活躍できるグローバル・リーダーやグローバルな視点をもって地域社会の活性化を担う人材を育成する。

大学院課程においては、グローバルマインドを育む教育環境の下、確かな研究力に裏打ちされた教育を実践することにより、豊かな国際性・創造性・学際性をもってグローバルな課題に挑戦し、人類の未来を切り拓く高度専門職業人・研究者を育成する。

- 本学を起点とする国内外の教育研究機関とのネットワーク等を活用し、多様な文化や背景を持つ学生・研究者の交流を推進するとともに、海外の教育研究機関との共同研究・共同教育プログラムを推進し、本学のグローバル化を図る。

- 地域の知の拠点として、地域課題の解決や地域の活性化に向け、産学官の連携により、イノベーションの創出、学術文化の発展、先端医療の発展・普及、学習の機会提供等、社会貢献を促進する。

さらに、新たな知的発見や、世界に先駆けた研究成果の地域への還元を図り、研究を礎とした“世界と地域との環流”を実現する。

◆ 中期目標の期間及び教育研究組織

1 中期目標の期間

平成 28 年度～平成 33 年度

2 教育研究組織

この中期目標を達成するため、別表 1 に記載する学域、研究科及び別表 2 に記載する共同利用・共同研究拠点、教育関係共同利用拠点を置く。

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

〔1〕 主体性を涵養する教育により、学士課程においては、専門分野における確かな基礎学力と総合的視野を身に付け、国際性と地域への視点を兼ね備えた人材を育成するとともに、大学院課程においては、高度な専門的知識・技能と学際性を兼ね備え、国際的視野を有する研究者及び専門職業人等、グローバル化する社会を積極的にリードする人材を育成する。

(2) 教育の実施体制等に関する目標

〔2〕 学士課程における先導的な教育実施体制である学域学類制の深化を図るとともに、大学院課程における分野融合型教育を推進するための教育実施体制を整備する。

(3) 学生への支援に関する目標

〔3〕 入学から卒業までの徹底した学生支援を行う。

(4) 入学者選抜に関する目標

〔4〕 学域学類制に応じた入試制度改革を行う。

2 研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

〔5〕 先進的・独創的な研究を推進するとともに、多様な基礎研究を充実する。

(2) 研究実施体制等に関する目標

〔6〕 世界最高水準の研究拠点を目指し、研究実施体制を強化する。

3 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

〔7〕 持続可能な社会の構築に向け、「地（知）の拠点大学」として、地域創生の中心となる「ひと」の地域への集積や生涯学習社会の実現に寄与する。

4 その他の目標

(1) グローバル化に関する目標

〔8〕 海外機関との連携実績を生かすとともに、スーパーグローバル大学創成支援事業を活用し、国際競争力の向上に向け、本学のグローバル化を推進する。

(2) 附属病院に関する目標

〔9〕 先進的医療を担う人材の育成や臨床研究を推進するとともに、地域の中核病院としての役割を担う。

(3) 附属学校に関する目標

〔10〕 附属学校園と学校教育学類及び教職大学院との協働により、教育研究活動を組織的に推進するとともに、先導的・実験的な教育活動に取り組む。

(4) 大学間連携に関する目標

〔11〕 国立六大学（千葉大学、新潟大学、金沢大学、岡山大学、長崎大学、熊本大学）連携コンソーシアム等の大学間連携により、教育・研究等の機能の強化を図る。

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標

1 組織運営の改善に関する目標

〔12〕 本学の強みや特色を生かし、教育、研究、社会貢献等の機能を最大化できるガバナンス体制を構築する。

2 教育研究組織の見直しに関する目標

〔13〕 本学の強み・特色を生かした教育研究組織を編成する。

3 事務等の効率化・合理化に関する目標

〔14〕 効果的・機動的な事務運営体制を確立する。

III 財務内容の改善に関する目標

1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標

〔15〕 多様な財源を確保し、自己収入の増加に努める。

2 経費の抑制に関する目標

〔16〕 経費の抑制を推進する。

3 資産の運用管理の改善に関する目標

〔17〕 資産の効率的な運用を推進する。

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

1 評価の充実に関する目標

[18] 教育研究の質を保証するとともに適切な大学運営を行うため、自己点検・評価を充実する。

2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

[19] 情報提供の基本理念や広報戦略に基づき、大学情報を積極的に発信する。

V その他業務運営に関する重要目標

1 施設設備の整備・活用等に関する目標

[20] グローバル化に対応した教育研究環境を整備する。

2 安全管理に関する目標

[21] 教育・研究の場にふさわしい、安全で快適な修学・就労環境を提供する。

3 法令遵守等に関する目標

[22] 研究不正の防止を含め、コンプライアンスを徹底し、適正な法人運営を推進する。

別表 1 (学域, 研究科)

学 域	人間社会学域 理工学域 医薬保健学域
研 究 科	人間社会環境研究科 自然科学研究科 医薬保健学総合研究科 先進予防医学研究科 新学術創成研究科 法務研究科 教職実践研究科

大阪大学大学院大阪大学・金沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福井大学連合小児発達学
研究科 (参加校)

別表 2 (共同利用・共同研究拠点, 教育関係共同利用拠点)

【共同利用・共同研究拠点】 がん進展制御研究所 環日本海域環境研究センター
【教育関係共同利用拠点】 環日本海域環境研究センター 臨海実験施設